

「問題が起こったときこそ」

使徒の働き 6章1～7節



教会はいつの時代も問題に直面します。迫害のような外からの圧迫は絶えることはありませんし、また教会の内部に起こる問題もあります。信仰的に弱ってしまうことや異端化やカルト化の危険もあります。さらには人の交わりですから人間関係や運営上の混乱なども生まれます。

イエスキリストを信じるということは、問題が起こらないことではなく、問題に対する対応のあり方にこそ表れることを学びましょう。

①問題が起こったときこそ、私たちのあり方を確認する機会となる

“そこで、十二人は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神のことばを後回しにして、食卓のことに仕えるのは良くありません。…私たちは祈りと、みことばの奉仕に専念します。」” 2,4

②食卓の奉仕もみことばの奉仕も、奉仕者のあり方には違いはない

“そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御靈と知恵に満ちた、評判の良い人たちを七人選びなさい。その人たちにこの務め（=食卓の奉仕）を任せることにして…” 3

“この提案を一同はみな喜んで受け入れた。そして彼らは、信仰と聖靈に満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、そしてアンティオキアの改宗者ニコラオを選び、この人たちを使徒たちの前に立たせた。使徒たちは祈って、彼らの上に手を置いた。” 5-6

③ひとりひとりが自分に与えられている奉仕に力を注ぎたい

“私たちは祈りと、みことばの奉仕に専念します。” 4

“キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、それぞれの部分がその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることになります。” Iペリ4:16

【考えてみよう】

・「神のことばを後回しにして」とは具体的にはどういうことであると思いますか。私たちの教会やチャペルにおいては、ひとりひとりがふさわしい奉仕にあたることができているでしょうか。思い巡らしてみましょう。